

## 【国語】

実践事例：小学校2年生 / 実施機関：大阪府教育委員会

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・特殊音節の省略や転移。  
「かけっこ」→「かけこ」「きゅうり」→「きゅり」
- ・濁点・半濁点の省略。  
「ぺんぎん」→「ぺんきん」「きっぷ」→「きつぷ」
- ・表記ルールの誤り。  
「メがね」「きゅーり」
- ・拗音の小文字の置換。  
「しゅくだい」→「しょくだい」「きゅうり」→「きょうり」

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・特殊音節の省略や転移
- ・濁点・半濁点の省略
- ・表記ルールの誤り
- ・拗音の小文字の置換
- ・漢字・・・形、意味、音・読み・注意

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

6月・12月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

学級担任が実施。使用時間10分。

ひらがな・カタカナ10単語の聴写テストを行う。1年生はひらがな、2年生はカタカナで教師が読みあげる言葉を聞いて書きとる。わからない文字がある場合は「○」を

文字の代わりに書く。4年生は101漢字テストを実施する。  
テスト終了後一覧に誤答を書き出し、つまずきを把握する。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・特殊音節の省略や転移
- ・濁点・半濁点の省略
- ・表記ルールの誤り
- ・拗音の小文字の置換
- ・漢字・・・形、意味、音・読み・注意

#### (2) つまずいている背景・原因

- ・音の操作が難しい
- ・文字と音の変換
- ・字形がうまく取れない
- ・文字の区別と記憶が難しい

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・特殊音節を動作化する・・・音を視覚化する  
長音は 手を合わせてのばす  
促音は 手を上にあげる  
拗音は のばした時に「あ」になる →「〇ゃ」  
のばした時に「う」になる →「〇ゅ」  
のばした時に「お」になる →「〇ょ」
- ・言葉カードの三択クイズ
- ・ことば集め・・・ノートに「小さい『っ』のつく言葉」を書く
- ・小さい「や・ゆ・よ」クイズ
- ・プリント学習・・・MIMプリントを週3回
- ・のばす音みつけ・・・カタカナののばす音をクラス全員が1個ずつ見つけていく、クラス全体で実施する
- ・カタカナ言葉探し・・・文字カードを使って言葉さがし
- ・連絡帳・・・カタカナを多めにする
- ・漢字については、誤りパターンに応じた支援、間違った漢字の学習

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

特になし

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ゲーム性を持たせたことにより児童は意欲的に、特殊音節の学習に取り組んだ。
- ・特殊音節の間違いが減少した。
- ・筆順に注意を向けられるようになった。

- ・先生によく確認するようになった。
- ・自分一人のためのプリントを喜んだ。
- ・誤った漢字を視写する課題は新鮮で興味を持った。

## 【算数】

実践事例：小学校5年生 / 実施機関：大阪府教育委員会

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・たしざん (くりあがりなし・あり)
- ・ひきざん (くりさがりなし・あり)
- ・かけざん (九九)
- ・わりざん (九九)

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD (学習障害)  ADHD (注意欠陥/多動性障害)  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念(時間、大きさ等)を理解すること  
 学習(計算、推論等)すること  その他

- ・たしざん (くりあがりなし・あり)  
・ひきざん (くりさがりなし・あり)  
・かけざん (九九)  
・わりざん (九九)

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

7月・12月

##### (2) 実態把握の方法(実施者・方法)

(5年) 1枚につき1分 計7分

たしざん、ひきざん、かけざん、わりざん、混合問題、数の大小、数列

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・計算ができない
- ・くりあがり、くりさがりができない
- ・数の大小がわからない

- ・九九ができない

(2) つまずいている背景・原因

- ・計算することが苦手
- ・推論することが苦手
- ・計算の基礎的スキルの不足

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

計算の基礎スキルの流暢性を向上させるため、以下を実施。

- ・1桁の計算に素早く答える
- ・1週間に2日 各2枚 「さんすうチャレンジ」(プリント) を実施

(ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)  
特になし。

(4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・1分間の正答数の増加
- ・計算スピードの向上